

地域ガソリン等 安定供給体制維持計画(西表島)

竹富町 

概要



計画策定の背景・目的

西表島では離島という地理的条件により、輸送やガソリン備蓄に大きな課題を抱えている。島内には東西2か所に貨客船の発着港があるが、西部航路は欠航率が高く、欠航時は東部経由での陸送対応となるため、西部地域ではガソリン供給が不足しがちである。加えて、台風による長期欠航も頻発する。

また、島内のSS運営事業者は零細のため、備蓄設備を整える資金力がなく、従業員の高齢化や事業承継問題も深刻である。

今後の自然災害等に備え、住民や事業者へ安定的に石油製品を供給する体制を構築するため、本計画を策定した。

地域のSS・石油製品供給体制における問題点・課題

① 海上輸送における問題

- ・貨客船の上原航路の就航率が低く、上原地区のSSで必要な量の石油製品を必要な時に仕入れられない。
- ・既存の貨客船の一部ではタンクローリー輸送が行えるが、タンクローリー輸送の導入により石油製品の輸送能力を増強することは難しい。
- ・民間航路事業者の既存の取組だけでは、上原航路の石油製品の輸送能力を増強することは難しい。

② 島内における貯蔵施設・設備の問題

玉盛商会	西表港運	西部石油商会
・地下タンクの老朽化	・地下タンクの老朽化	・輸送用コンテナの不足 ・危険物貯蔵場所の不足

③ 島内における在庫不足の問題

- ・西表島内の石油製品の在庫が不足し、販売制限を実施することがある。

地域のSS・石油製品供給体制に対するニーズ



① 石油製品の購入状況

- ・住民アンケート調査の回答世帯の99%が石油製品を購入(ガソリン:99%、灯油:36%、軽油:17%)



② 現在利用しているSSの必要性

- ・回答世帯の91%が、現在利用しているSSは「必要」だと認識



③ 不便に感じていること

- ・回答世帯の76%が、石油製品の購入で不便を感じており、計画に「価格の安さ」「島内SSの存続・維持」「ガソリン等の安定供給」を求めている

対策の基本方針

- 方針①：船舶による石油製品輸送能力を強化する
- 方針②：SS運営事業者の輸送・貯蔵機能を確保・維持する
- 方針③：島内備蓄施設の整備を検討する(R8年度以降に必要性を検証)
- 方針④：在庫ひっ迫時や災害時における石油製品の供給に関する協定の締結を検討する

対策内容

① 船舶による石油製品輸送能力を強化する

① 民間航路事業者による上原航路の輸送量の拡大

- ・定期船の上原航路の輸送能力を最大限に活用する。
- ・石油製品輸送量が不足する場合は、航路事業者とその都度協議し、臨時便・増便を検討し、石油製品の輸送量の確保に努める。

② 竹富町有貨物船「つむぎ」による石油製品輸送の強化

- ・定期船での石油製品輸送量に不足が生じる見込みの場合は、竹富町有貨物船つむぎで補完的に輸送を行う。

② SS運営事業者の輸送・貯蔵機能を確保・維持する

① 地下タンクの流出防止対策又はコンテナ型給油所の導入等の検討

- ・地下タンクの更新が必要な玉盛商会南風見SS及び西表港運上原SSは、地下タンクの流出防止対策(入替・FRPライニング・電気防食)又はコンテナ型給油所の導入等を検討する。

② 輸送・貯蔵機能を確保・維持するために必要な施設・設備に活用可能な支援制度を模索する

- ・SS運営事業者単独では、必要な施設・設備の整備に必要な資力が不足するため、活用可能な補助金などの公的支援制度を模索する。

③ 海上輸送時の荷姿の変更(ドラム缶→コンテナ)による輸送量の増大

- ・輸送効率化のため、西部石油商会は、ドラム缶輸送を可能な限り廃止し、2KLコンテナを新たに整備し、コンテナ輸送に切り替える。

④ コンテナで貯蔵できる体制の整備

- ・コンテナを貯蔵に使用するため、玉盛商会・西部石油商会は危険物屋内貯蔵所および危険物屋外貯蔵所を整備する。

③ 在庫ひっ迫時や災害時における石油製品の優先供給に関する協定の締結を検討する

- ・災害時など特に在庫のひっ迫が予想される場合への対応として、緊急車両等に対して優先的な供給を約束する協定の締結を検討する。